

4. 開拓期は戦争の時代

地域産業
国際理解

第1章 十勝の平野や川がでるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、そして未来へ

用語

さくいん

人が、そして馬も戦場へ



明治39年(1906)、日露戦争勝利を祝い、利別市街(池田町)に建てられた凱旋門。



利別太(池田町)の名古屋孫太郎さんの負傷(実は戦死)の報せ。

(写真: 2点とも『池田町懐かしのアルバム』より)

開拓の時代は、日本が外国と何度も戦争をおこなった時代でもあります。

明治27~28年(1894~95)の日清戦争。明治37~38年(1904~05)の日露戦争。

そして、昭和12年(1937)から始まった日中戦争は、昭和15~16年(1941~42)の東南アジアへの侵攻、さらに太平洋戦争(第2次世界大戦)へと拡大し、昭和20年(1945)の敗戦まで続きました。(ほかにも武力による戦いは起きています)

十勝開拓が本格的になったのは明治29年(1896)から、十勝で徴兵がおこなわれたのは、明治31年(1898)からです。そのため、多くの十勝の人にとっては、日露戦争から、大きなかわりを持ってきました。



明治37年(1904)、日露戦争で戦死した名古屋孫太郎さんの葬儀。洞寒村(池田町)の村葬としておこなわれた。

(写真: 『池田町懐かしのアルバム』より)

日露戦争と十勝

日露戦争の時、利別太(池田町利別南町)は、十勝川(今のオシタツ川)の舟着き場の街であって、十勝内陸で最も発展した市街地のひとつでした。(p175)

この利別太のある洞寒村(池田町)からも、何人かの若者が日露戦争に出征しています。遠く中国大陸で、ロシア軍と戦ったのです。

日露戦争は、日本の勝利となりました。利別太でも戦勝パレードがおこなわれています。しかし、非常に苦しい戦争で多くの犠牲がはらわれました。

洞寒村の名古屋孫太郎さん、岩間太吉さん、遠藤音治さんは戦死し、村による葬儀がおこなわれました。

馬も戦場へ

明治から昭和にかけて、農作業に、荷物運びに、さまざまな工事に、そして馬車にと、馬は大きな力を発揮しました。

そのため、とくに馬産地としても有名な十勝では、馬に対するさまざまな思いから「馬頭観音(馬頭観世音菩薩)」がたくさん設置されています。(p199)

馬は、戦場でも兵士や武器などを運ぶのに、大きな役割を持っていました。軍馬として育てられたものだけでは足りないので、徴発といって、農家などの馬が買い上げられます。

十勝からも多くの農耕馬が大陸にわたり、戦場で働きましたが、敗戦後、置き去りにされ、ほとんどが殺されたといえます。



軍馬として徴発された馬「玄海号」。飼い主である村田さんも昭和17年(1942)召集されて戦場に向かった。

(写真: 『池田町懐かしのアルバム』より)

1 軍馬(ぐんば): 軍馬のほかに戦争に利用された動物には、犬(軍用犬・主にシェパード)もある。

2 徴発(ちようはつ): 強制的にものを取り立てること。とくに、軍隊が使うものを集めること。

3 武運長久(ぶうんちようきゆう): 戦いでよい運がずっと続くこと。